

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二五（令和七）年度 入学者選抜試験問題

総合型選抜 特待奨学生選抜

二〇二四年十二月十四日（土）実施

国語

I 注意事項

解答用紙の解答科目欄に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は 1 ページから 21 ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用することは法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、「解答番号は

10

」と表示のある問いに対して

④と解答する場合は、下記の例のようにマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「義理と人情」ということばは、われわれが日常①ジメイのこととして使っていることばである。しかし、その厳密な意味を探ろうとすると、これほど厄介なことばもまた少ない。常識的に考えると、義理とは義務であり、公的世界にかかわる②人倫である。それにたいして人情は、人間の欲望や感情の自然なはたらきであって、私的世界にかかわるものである。(a)「義理と人情」という対概念を、同じ意味の異なった対概念に置き換えると「公と私」ということになる。

ごく大まかに事をすませようとする人には、これでよいのかもしれない。(b)「われわれが「義理と人情の板ばさみ」などと言うとき、社会的責務と、自己の人間性にもとづく要求や情緒との③カットウに悩むわれわれの心的状態を示すことがかなりにあるのである。

(c)「問題はそれですむのだろうか。もしそうであれば、「義理と人情」の対立やカットウということは人類に普遍的な現象であって、事新しく問題とするにはあたらな。しかし、④義理・人情の問題を簡単に「公と私」と対立させて使っている一方、(d)「第一に義理が公に相当するとしても、日本の公ということばは、西洋という公共(public)とは意味がちがう。さらにまた、われわれは「義理と人情」とを対立させて使っている一方、「あの男は義理人情を解する男だ」とか、「近ごろの若い者は義理人情を解さなくなった」などというように、義理・人情をわちがたい同性質の一組の概念として使っている。こうなると、「義理・人情」を簡単に「公と私」というように一般化するわけにはいかない。

義理は、西洋でいうような「義務」と全面的に一致するものではない。(e)「お義理でする」などと言うときには、一種の社会的制裁があるために厭々すること、⑤ベネディクト流に言えば「不本意ながらもそれに従わねばならぬもの」を意味する。このとき義理は、われわれの心とは無関係な外的な社会的制裁力や拘束力をもつ社会的規範や習俗を意味する。

しかし他方、義理は、われわれの情的なパーソナルな人間関係において成立する人倫という意味合いをもっている。この人間関係からは、親子や夫婦や恋人同士のような特定の親密な関係は除かれねばならないが、よそよそしい人間関係とは異なる情的なパーソナルな人間関係をつなぐ精神的紐帯⑥ちゅうという意味で、義理ということばを今日でも使っているのである。たとえばわれわれが、友人や自分を信頼してくれている人びとのことを思い浮かべながら、「Aにたいして義理が悪いから」と言っ、あることをしたり、しなかったりするばあいのごときが、それである。義理がこのような意味で使われるとき、義理と人情とは公と私というように対立したものではなく、「義理人情」は一組のものとして使われ、情的でパーソナルな人間関係に成立する一種の人倫、心の

ありかたを意味する。このばあい、義理と人情とはともにある温かい、ウェットな性格をもった人間関係に根ざした心情道德、ということになる。

(ウ) この二つは今日の義理の二つの相反した(3)キョクにおける用法であるが、いずれにしても、義理は個人の傾向性に反した義務とか、道德的格律とか、社会的責務という性格をもっていない。「(エ)傾向性―義務」が西欧社会の内面道德の軸であるとすれば、「権利―義務」ということもやはり西欧社会の他の軸、すなわち外的社会規範の軸であろうが、情的でパーソナルな人間関係において成立する「義理―人情」はそれとも異なる。だとすれば、われわれは「義理と人情」を、西欧的な意味での「公と私」とに置きかえる試みを放棄しなければならない。

では義理とは何だろう。今まで見てきた義理の今日的用法から判断すれば、義理には「冷たい義理」と「温かい義理」の二種類がありそうだ。冷たい義理というのは、われわれがいわゆる「お義理でする」ばあいの義理——われわれの主観的気持にそくしていえば、「する」というより、むしろ「させられる」と言ったほうがぴたりする——のことである。すなわち、われわれの心に、あるやりきれなさを感じさせる制裁力や拘束力をもつ社会規範や習俗という意味の義理がこれにあたる。義理自身の冷たさとともに、義理的行為をするわれわれの心の冷たさもそこにある。温かい義理というのは、情的でパーソナルな人間関係において成立する心情道德、われわれの内的規範、という意味での義理である。おそらく(オ)われわれの生活の中に機能している義理の大半は、この二つの義理の世界にまたがって、明瞭な輪廓をもたないもやもやしたものであろうが、われわれが義理の性格をはつきりさせようと思うならば、このような二つのタイプの義理に分類することが、大切な作業だと思う。

しかしなぜ義理という一つのことばにこうした相反した意味が含まれているのだろうか。この問題に答えるためには、義理とは何か、ということをもう一度考え直してみなければならぬ。

私は、義理についてこう考えている。義理とは、もともとわれわれが親子とか夫婦とか恋人同士とかの特定の親密な関係(このばあい、自と他とのあいだに(4)シヨウヘキを感じないことが重要な条件である。このシヨウヘキを感じ始めたら、親子の関係にも夫婦の関係にも、義理の風がはいりこむ)以外の人から何らかの好意をうけたばあい、これにたいして応え、なんらかの仕方で返しをしようという人間の自然な感情に由来している。しかしこれだけではまだ十分ではない。この好意を与えた人、受けた人はおたがいに顔を知っている狭いサークル(共同体)に所属している。このサークルの人びとは、好意を受けた人が与えた人にその返しをすることを期待し、好意に応え、返しをするか否かによって、その一員として認めるかどうか、ということ判定する。

こうした人類に普遍的な社会現象が、たんにその場かぎりのものに終わらず、一つの習俗として、その社会の生活規範になったものが義理なのである。

このように義理という生活規範には、好意を与えた人と好意を受けた人とのあいだの人間関係が長期にわたって存続すること、さらに彼らの所属する社

会が⑤ヘイサ的な共同体であることが、その成立の基本条件である。

ところでこのさい、好意を与えた人と好意を受けた人の関係も時には親しく、時にはうとましくなる。また好意を返そうと思う人とそれを見守る社会の関係も、情的な紐帯でつながれたり、それが切れて、外的強制によるつながりになったりする。われわれの生活の場で経験する義理は、相反した性格の、温かい義理と冷たい義理なのである。

(源了圓『義理と人情——日本的心情の一考察』による。一部改変。)

(注) ベネディクト——ルース・ベネディクト。アメリカの文化人類学者で、日本文化論の名著『菊と刀』を執筆した。

問1 傍線部(1)～(5)に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は

1

 ～

5

。

(1) ジメイ

1

① あのと二人は昔からのメイユウだ。

② 父のミョウダイとして出席する。

③ コンメイの世を生きる。

④ 優良メイガラに投資する。

⑤ ミョウニチでしたら大丈夫です。

(2) カットウ

2

① アタリくじをひく。

② 鬼をウツ。

③ 貧血でタオレル。

④ フジの花のお香をたきしめる。

⑤ 病魔とのタタカイ。

(3) キョク

3

① キョクセンをひく。

② セツキョクテキに発言する。

③ キョクシヨ麻醉の手術。

④ キョクジツシヨウを受賞する。

⑤ ギョクザに座る。

(4) ショウヘキ 4

① 言論の自由をホシヨウする。

② 大臣のショウニンを得る。

③ ショウゲキテキな結末。

④ 集団ソシヨウを起こす。

⑤ 莫大なバイショウキンを受け取る。

(5) ヘイサ 5

① オレオレサギに気をつけろ。

② 水質のチョウサを行う。

③ サコクをする。

④ 彼にとってはゾウサもないことだ。

⑤ タイサで試合に敗れる。

問2 空欄(a)～(e)に入れる語として、最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つずつ選べ。解答番号は a 6、b 7、

c 8、d 9、e 10。

① まず

② むしろ

③ たとえば

④ すなわち

⑤ ところで

⑥ たしかに

⑦ しかし

⑧ なぜなら

問3 傍線部(ア)「人倫」のこの文章内での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

① 人が破ると罰せられる法律

② 人が生きていくために必要な技術

③ 人として守るべき道

④ 人と人をつなぐ絆きずな

⑤ 人の心の支えとなるもの

問4 傍線部(イ)「義理・人情の問題を簡単に人類的・普遍的現象とみなすわけにはいかない」理由は何か。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 「義理」は社会的責務のような「公共」とかかわっているが、西洋には「公」はあっても「義理」という概念はないから。
- ② 日本では「義理」と「人情」を対立させて使っているが、西洋ではそれらを同性質の概念としてとらえているから。
- ③ 「公共」はあっても日本の「公」に相当する概念がない西洋には、「公」とかかわる「義務」も存在しないといえるから。
- ④ 日本の「公」と西洋の「公共」は異なっているうえ、日本では「義理(公)・人情(私)」を分けずに使うことがあるから。
- ⑤ 若い世代が義理人情を解さなくなり、もはやこの概念自体が社会的制裁や拘束を伴うだけのものになってしまったから。

問5 傍線部(ウ)「この二つ」とは何を指すか。次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 13、14。

- ① 「義理と人情」は相反する対概念である、という意味の用法。
- ② 情的でパーソナルな人間関係に成立する一種の人倫である、という意味の用法。
- ③ 親子や夫婦や恋人同士のような特定の親密な関係で使用する、という意味の用法。
- ④ よそよそしい人間関係で成立するウェットな性格を持った心情道徳、という意味の用法。
- ⑤ 義理・人情はわかちがたい同性質の一組の概念である、という意味の用法。
- ⑥ 外的な社会的制裁力や拘束力をもつ社会的規範や習俗である、という意味の用法。

問6 傍線部(エ)「傾向性」について、本文の中で最も近い意味の言葉として使われているものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 板ばさみ ② 社会的制裁 ③ 心情 ④ 精神的紐帯 ⑤ 信頼

問7 傍線部(オ)「われわれの生活の中に機能している義理の大半は、この二つの義理の世界にまたがって、明瞭な輪廓をもたないもやもやしたものであろう」とあるが、なぜ義理は二分できない、「もやもやしたもの」なのか。その説明として最も適当なものを次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、

解答の順序は問わない。解答番号は 16、17。

- ① 好意を返そうと思う人とそれを見守る社会の関係が、情的な紐帯でつながれたり、それが切れて外的構成によるつながりになったりするから。
- ② 好意を与えた人と受けた人と好意を受けた人とのあいだの人間関係が長期にわたって存続するから。
- ③ 好意を受けた人がそれに応え、なんらかの仕方で返しをしようとする人間の自然な感情に由来するものだから。
- ④ 好意を受けた人が与えた人にその返しをすることを期待し、その期待に応えるか否かによって、サークルの一員とするかどうかを判定するから。
- ⑤ 好意を与えた人と好意を受けた人の関係が時には親しく、時にはうとましくなることがあるから。
- ⑥ 好意を与えた人と受けた人は、おたがいに顔を知っている狭いサークル(共同体)に所属しているから。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

用談がすんだから、もう帰ろうかと思うと、どこかの工場で正午の汽笛が鳴っている。

「左様なら」と云いかけた途端に、主人がふと席を立ったので、戻って来るのを待っているところへ奥さんが入れ違いに麦酒をお盆に載せて這入って来た。私は、しまったと思って途方に暮れた。

きらいではないけれど、飲みたいと思っていない時に、先方の思いつきで飲まされるのは迷惑である。後の用事とか予定とか、そう云う事は第二としても、自分のおなかの中の順序に、外部から干渉されるのが、いやなのである。

「折角ですが、どうかお抜きにならないで」

「まあよろしいでは御座いませんか、大分お強い様に伺って居りますわ、宅では主人があまり行けませんので」とか何とか饒舌っている内に、何処で見習って来たものか、栓抜きくわの横腹で、罎びんの口金をこつこつと敲く様な仕草を平気でやって、それでも一遍で抜けないものだから、がりがり、いやな音をさせながら、罎を廻まわしてやっと抜くのである。

そこへ女中が鰻井うなぎどんを持って来る。

(ア) 既に万事休して、このお陰で今晚の食膳が、どんなに不味まずなるかと考えると、先ず以て憂鬱になる。

コップが小さくて、おまけに胴中がくびれて、あんまり沢山這入らない様になっているから、奥さんのお酌でいくら飲んでも、麦酒を飲んだ様な気持にならない。うまくないので、好い加減に止めて井に移ろうとすると、奥さんは麦酒が一本も明かないものだから、さもさも自分のおもてなしが悪い所為せいの様に、考えているかどうか知らないが、口先ではそう云う風に大袈裟な巧弁で遺憾の意を表しつつ、なおもう一杯二杯と薦めようとするのである。もてなし方が悪いのではなく、もてなして貰いたくないのだから、(イ) 交際上の気合が合わない。むっとした気持で、鰻井に箸をつけると、(ウ) 因果なことに意外にうまくいったりして、一粒も残さず食べてしまった後では、おなかが悪しくなると、頭は鬱陶しく、麦酒と一緒にふくれるものだから胸がどきどきし出す。だからこちらの欲せざる時に、外の時なら欲しそうな物を、先方の思いつきで、勝手に人の前に供せられては、困るのである。

午後の往訪は、もっと危険である。公衆電話で都合を聞いたところが、お待ちしていると云う返事なので、早速出かけて、用談している内に、障子の外が薄暗くなりかけた。漠然たる危険の予覚があるので、なるべく話を端折って、いつでも立ち上げられる様な心構えにしていると、その内に話が切れて座がしん

とした。遠くの方で、こつこつ、と非常に速い拍子で、何か刻む音がしている。台所に違いない。奥さんか女中かキャベツが玉菜を刻んで、焼豚に添えて、麦酒を持って来る光景が眼前に(エ) 髻ほうかつとして来た。

「それでは、失礼します」と私が云った。

「おや、今、何まだ、いいじゃありませんか、今」と云って、主人が先に中腰になった。

主人に一旦引込まれると事が紛糾しそうなので、その場の気配に閑せず、私は遮二無二挨拶をしてしまつて、立ち上がった。

玄關まで出る内に、主人は向うを廻つて(オ) 策謀本部に通報したらしい。奥さんが手を拭き拭き出て来て、「あらまあ只今ただ」と云いながら引き止めようとする気配を見せたので、私は急いで土間に下りて下駄を穿はいてから挨拶した。

「どうも飛んだお邪魔を致しました」

「いえ、あの只今一寸、ほんの有り合わせの物で御座いますけれど、宅で用意した物を差し上げようと存じまして、それでまだ御挨拶にも出ませんでしたのに」

その、奥さんが挨拶にも出ないと云うところを、私は怪しいと睨にらんだのである。明察、神の如く、愚図愚図していたら、おぞましくもその手に乗るところであつた。

「でもまあ、お宜しいでは御座いませんか、ほんの一寸、御手間は取りませんから、もう一度どうかあちらにお通り下さいませんか」

しかし、もう既に(カ) 大勢は決しているのである。私は身辺に危険を感じずる事なく、余裕を以て自分の失礼を詫わび、再来を約して悠悠と帰路についた。不意に先方の思いつきで晩飯をあてがわれては、(キ) その日一日の労苦が水泡に帰するのである。この事を、親切な奥さん達が考えてくれないのは遺憾である。

(内田百閒「饗応」による。一部改変。)

問1 傍線部(ア)「既に万事休して」とあるが、ここでの具体的な意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 今からでは夕飯の支度が間に合わない状況になってしまったということ。
- ② もう相手のもてなしを断ることができない状況に追い込まれたということ。
- ③ 相手との親密な関係にひびが入らざるを得ない状況になってしまったということ。
- ④ 相手に気を遣わねばならないため食事を楽しめなくなってしまったということ。
- ⑤ 自分の食へのこだわりを理解してもらうことが不可能な状況だと分かったということ。

問2 傍線部(イ)「交際の気合が合わない」とあるが、ここでの具体的な意味として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 19。

- ① 相手の性格とこちらの性格が合わないために、お互いがいらいる状況になっていること。
- ② 相手の熱意に対してこちらの気持ちがついていかず、相手の困惑が感じられる状況になっていること。
- ③ 相手とコミュニケーションをとるときの常識が通用せず、ちぐはぐな会話になっているということ。
- ④ こちらが気を遣って欲しいことが相手に伝わらないため、相手の誠意が空回りする状況になっていること。
- ⑤ 相手のもてなしを拒絶する決意を固めるまえに、先手を取られてなす術がない状況になっていること。

問3 傍線部(ウ)「因果なことに」、傍線部(エ)「髣髴として」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号はウⅡ 20、エⅡ 21。

(ウ)「因果なことに」

- ① 思いがけなく
- ② 本当に偶然に
- ③ 不運なことに
- ④ どういう訳か
- ⑤ 当然のように

(エ)「髣髴として」

- ① はつきりと浮かんで
- ② いきなり飛び込んで
- ③ 思い出に重なって
- ④ 立ちふさがって
- ⑤ 実際に垣間見えて

問4 傍線部(オ)「策謀本部」とあるが、この語を使うことで、どのような様子を表現できるのか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 22。

- ① 家中が、戦争しているように慌ただしい状況で、お客の「私」がないがしろにされている様子。
- ② 家族は家長を頂点として、上下関係がきちんとしており、常にその顔をうかがわなければならない様子。
- ③ 客人からはうかがい知れない家の奥から、客の動向を密かに監視していることが感じられる不気味な様子。
- ④ 温かいもてなしの裏に、何らかの権謀術数をめぐらせていそうな油断できない相手家族の様子。
- ⑤ 台所で奥さんを中心にして、「私」をもてなすための周到な作戦を練り、準備している様子。

問5 傍線部(カ)「大勢は決している」とは、具体的にはどのようなことを指しているか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号

は
23。

- ① 夕食のもてなしを「私」が断つても、角が立たない自然な状況になっている。
- ② 「私」が夕食のもてなしを受けなくても、恨まれることのない状況になっている。
- ③ 夕食のもてなしを受けても受けなくても、「私」が傷つかない状況になっている。
- ④ 相手の家族が総出で「私」を引き留めても、ゆるがない覚悟が固まった状況になっている。
- ⑤ 夕食をもてなすために相手が策をめぐらせても、わな罠を見破ることができる状況になっている。

問6 傍線部(キ)「その日一日の労苦が水泡に帰する」とあるが、これは具体的にはどのようなことを述べたものか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

24。

- ① 相手との交渉において、自分が主導権を握って優位に進めようという計画が台無しになってしまうこと。
- ② 健康に配慮して一日の食事を計画的に摂ろうとする試みが、相手の無理解で挫折してしまうこと。
- ③ 夕食を心ゆくまで楽しむことを最優先にして、細心の注意を払って行動した一日の努力が無駄になること。
- ④ 気兼ねなく自由を満喫しようと密かに画策していた食事の時間が、堅苦しい時間になってしまうこと。
- ⑤ 一日中、一生懸命働いたことの成果とその達成感が、あまり実感できない結果になるということ。

問7 この作品の表現の特徴についての説明で、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

25

。

- ① 「私」とその家の主人とのやり取りによって、影の存在である奥さんが、かえって浮き彫りになるように語っている。
- ② 食における自分の世界を頑なに守ろうとする「私」の姿が、抒情的な語りによって哀感漂うものとして描かれている。
- ③ もてなす側の誠意を有難迷惑ありがたと感じる「私」を、語り手は倫理的に批判されるべき存在として語っている。
- ④ 食べることにこだわる「私」の我儘わがままな本音を語りながら、もてなす側との駆け引きを少し大げさにユーモラスに描いている。
- ⑤ 食事をもてなす場にありがちな気持ちのすれ違いを、客観的な視点で双方の立場に寄り添いながら淡々と描いている。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】情報工学科

経済学科

経営学科

文学科（英米文学専攻、心理学専攻）

教育学科

芸術学科

栄養学科

スポーツ科学科

【短大】現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

【大学】文学科（日本文学専攻、歴史学・考古学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（18ページ～21ページ）

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（14ページ～17ページ）

第3問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

小説とは、近代ヨーロッパにおいて発展した文学形式である。小説の興隆にともない、「物語」という従来の語り形式は、小説の語りにとって代わられていったが、語りの形式としての「物語」と「小説」は、いくつもの点において際だって対照的である。

「物語」は、共同体というひとつの小さな世界のなかで、その共同体に帰属する者たちによって共有されるのが普通だ。そして「物語」はたいいてい、話者の母語によって語られる。それは同時に、聞き手の母語でもある。地域が異なれば、「物語」を語る言葉も異なるだろう。他方、小説は、ひとつの同じテクストが、地域や共同体の境界を超え、階層やジェンダー、そして、言語をも異にする、さまざまに異なった異質な読者によって読まれる点に特徴がある。

「言語を異にする読者」というのには、いくつかの含意がある。ひとつには小説が、他の言語に翻訳されてほかの国でも読まれる、ということの意味しているが、それだけではない。小説が翻訳されるということ、そして、原著とは別の言語で、別の国の人々によって読まれるということは、現代の私たちにとってはジメイのことにように思われるが、本当にそうなのだろうか。小説はなぜ、翻訳することができるのか、なぜ、世界の各地で言語や文化を異する人々に、同じ作品として読まれうるのか。小説のこの翻訳可能性という問題は、あらためて考察を要するたいせつな問題であるようにわたしには思われるが、ここではその問題はおいておく。

近現代の歴史、とりわけ植民地主義の歴史は、小説が別の言語に翻訳されることなく、原語のまま、別な言語を母語とする者たちに読まれるという事態を可能にするとともに、そのような者たちが母語以外の言語によって小説を書くという事態を促した（わたしがここで想起するのは、ドゥルーブルガタリの「マイナー文学」についての議論である）。

さらにまた、「物語」が話者の母語、すなわち、話者に身体化された言語で語られるのに対し、小説の言語は、多くの読み手にとって「母語」ではない。それは、学校教育で修得された書き言葉という、母語とはまた別の言語であるという点においても、小説は、言語を異にする者たちによって読まれるということになる。

近代という時代における、小説の隆盛にはさまざまな複合的な要因があるだろう。いちどきに大量のコピーを製造するには、それを可能にする製紙技術や印刷技術が必要であつただろうし（それには当然、原材料の確保や資本が必要である）、また、できあがった作品を商品として国内外に流通させるためのさまざまなシステムの存在も必要であろう。また、ひとつの地域や共同体を超えて、母語を異にする者たちに作品が読まれるためには、それらの者たちに共有される、統一された言語というものの存在が不可欠であり、同時に、そのような統一された言語を共有する読者の存在が必要である。

近代国民国家建設の要請に支えられた近代教育というものが、「国語」なるものを子どもたちに教え、徹底的に身体化させていった。そして、そのような言語を自らの言語として内面化させた者たちが、「国民」として形成されていくことになる。小説というものは、小説を小説として可能ならしめるこれら内在的、外在的な主要な要件において、近代の国民化、国民国家化という問題と密接に関連している。だが、そのことは、小説というものが本来的に、ナショナリズムに骨がらみになっている、ということを必ずしも意味するものでもないだろう。

小説は、小説という虚構の空間に〈世界〉を構築する。エドワード・サイードは、なぜ、イスラーム世界で「小説」という文学形式が誕生しなかったかと自問し、それについて自らこう答えている。イスラーム教徒にとって、世界の創造とは神のみに帰属する行為であり、被造物である人間が、神が創造した世界とは別の世界を創造／想像することは、「ビドゥア」(bida イスラームから外れた行い)と考えられたのだ、と。

〈世界〉を小説に具現するとき、私たちは、世界を俯瞰する視点に自らの視点を同一化させなくてはならないだろう。世界を俯瞰する視点、それは、神の視点にほかならない。神の視点で、神が創ったこの世界とは別の世界を構想すること——なるほど、たしかにそれは、敬虔なイスラーム教徒ならば、神に対する被造物の不遜な挑戦と映ったかもしれない。だとすれば、小説とは本来的に、神との緊張関係をはらんでいることになる。

近代西洋における神の衰退と小説の興隆は、偶然ではないのかもしれない。では、神のいない世界、人間中心のこの世界で、社会を俯瞰し、人間が構成するさまざまな共同体を超越し、社会を客観的に捉える視点、メタ・レベルの視点とは誰の視点なのか？ それは、「国家」の視点と限りなく近いもの——必ずしも同一のものではないにしても——ではないだろうか。

小説を可能ならしめる要件が、国語の成立であるとか、国民の形成であるとかいった、国民国家建設の要請と歴史的に不可分なものであり、また、小説世界を仮構する視点が、国家の視点と限りなく近いものであったからと言って、それだけで、小説がすべからずナショナリズムと共犯関係にあると断定することはできない。しかし、少なくとも、小説というものが、小説を小説たらしめるその諸条件のうちに、ナショナルな経験、ナショナルな契機がすでに書き込まれているということについては、きちんと確認しておく必要があるだろう（ここで、「小説」を「映画」と言いかえることも、あるいは可能かもしれない）。

また、近代は、単に小説なるものを可能にただでなく、近代という時代それ自体が、小説的な語りを要請したのではないか。近代において社会が体験するドラステイックな変容。国民国家間で生起する戦争には、国民すべてが否応なく巻き込まれる。植民地主義の侵略によって、祖国にいながらにして、自分たちが帰属する、そして自分たちに帰属するはずの大地から疎外されていくという不条理。近代という時代が、そこに生きる人間たちにもたらすトラウ

マ（精神的外傷） その不条理さゆえに言葉で名づけ、「経験」として飼い慣らし、過去に放り込むことのできない〈出来事〉の暴力。そうした、言葉では語ることができない体験、〈出来事〉を、物語として語るという時代の要請を、小説は自らの身に引き受けたのではないだろうか。言いかえれば、小説の語りにには、そうした出来事の不可能な分有の可能性が賭けられているのではないだろうか。

だが、それは、言葉では語りえないものが、小説であればにわかに、言葉で語ることができるようになるなどということではない。むしろ、ここでわたしが示唆したいのはそれとは反対のことである。〈出来事〉というものが本質的にはらみもっている再現することの不可能性、それをいかにしてか語ることによって、小説はそこに、言葉では再現することのできない〈現実〉があることを、言いかえれば〈出来事〉それ自体の在処を、指し示すのではないか。言葉によって、もし、すべてが説明されうるのなら、小説なるものが書かれなければならない致命的な必要もないだろう。

（岡真理『記憶／物語』による。一部改変。）

問1 次の文章は本文の内容をまとめたものである。文中の空欄 A ～ E に入れるのに最も適当な語句を、次の①～⑩のうちから一つ選べ。

解答番号は A ㉒ 26、B ㉒ 27、C ㉒ 28、D ㉒ 29、E ㉒ 30。

小説の A の形式は物語と違う。それは、近代ヨーロッパの文学形式であり、地域や共同体を超えて B される。使う言葉も話者の C では

なく、学校で教育された D だ。しかも、小説の視点は世界を俯瞰する意味で神の視点と言ってもよい。この視点は国家の視点に限りなく近いものであ

り、小説の成立には近代の国民国家が密接に関係している。もしかしたら、近代において社会が体験するドラスティックな変容による E が小説という

A を可能にしたのかもしれない。

- | | | | | |
|--------|--------|------|--------|-----------|
| ① 書き言葉 | ② 話し言葉 | ③ 語り | ④ トラウマ | ⑤ ナショナリズム |
| ⑥ 翻訳 | ⑦ 修得 | ⑧ 母語 | ⑨ 原著 | ⑩ 国民化 |

問2 傍線部「近代西洋における神の衰退と小説の興隆は、偶然ではない」とあるが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 神が衰退したために人々の宗教心が弱まり、代わりに恋愛や生活など世俗的な事柄を扱う小説が注目を集めた。
- ② 神の力が弱まったために、本来、神との緊張関係をはらむ小説なるものが可能になった。
- ③ 人間中心の世界では、社会全体を客観的に捉える視点は、もはや宗教ではなく、共同体の視点であった。
- ④ 神のいなくなった世界では、神に代わって人間が神の創った世界を創らざるを得なかった。
- ⑤ キリスト教ではイスラーム教と違って、被造物である人間が小説という別世界を創造することが許されていた。

第4問【古文】 次の文章は『枕草子』の一節である。読んで、後の問いに答えよ。

心にくき物。ものへだてて聞くに、女房とはおぼえぬ手の、しのびやかにをかしげに聞えたるに、こたへ若やかにして、うちそよめきてまゐるけはひ。ものうしろ、障子などへだてて聞くに、御物まゐるほどにや、箸、匙などとりまぜて鳴りたる、をかし。(注1) 提子の柄のたふれふすも、耳こそとまれ。よう打ちたる衣のうへに、さわがしうはあらで、髪のみやられたる、長さおしはからる。

いみじうしつらひたる所の、(注2) 大殿油はまゐらで、炭櫃などにいとおほくおこしたる火の光ばかり照りみちたるに、御帳の紐などの、つややかにうち見えたる、いとめでたし。(注3) 御簾の帽額総角などにあげたる鉤の、(ア) きはやかなるも、けざやかにみゆ。よく調じたる火桶の、はひの際きよげにておこしたる火に、内にかきたる絵などの見えたる、いとをかし。箸の、いときはやかにつやめきて、すぢかひ立てるもいとをかし。

夜いたくふけて、御前にもおほとのごもり、人々みな寝ぬるのち、外のかたに殿上人などに物などいふ。奥に、碁石の(注4) 筥に入るおとあまたび聞ゆる、いと心にくし。

火箸をしのびやかについ立つるも、まだおきたりけりと聞くも、いとをかし。

猶いねぬ人は心にくし。人のふしたるに、物へだてて聞くに、夜中ばかりなど、うち(イ) おどろきて聞けば、(ウ) おきたるななりと聞えて、いふことは聞えず、男もしのびやかにうち笑ひたるこそ、なにごとならむとゆかしけれ。

又おはしまし、女房などさぶらふに、上人、内侍のすけなど、(エ) はづかしげなる、まゐりたる時、御前近く御物語などあるほどは、大殿油も消ちたるに、長炭櫃の火に、もののあやめもよく見ゆ。

殿ばらなどには、心にくきいままゐりの、いと御覧ずる際にはあらぬほど、やや更かしてまうのぼりたるに、うちそよめく衣のおとなひなつかしう、ゐざり出でておまへにさぶらへば、ものなどほのかに仰せられ、児めかしうつつましげに、声のありさま聞ゆべうだにあらぬほどに、いとしづかなり。女房こかしこにむれみつつ、物語うちし、下り上る衣のおとなひなど、(オ) おどろおどろしからねど、(カ) さななりと聞えたる、いと心にくし。

(注) 1 提子 — 銀や錫などでできた、つると注ぎ口のある酒器。

2 大殿油 — 宮中や貴族の寝殿でともす油のともし火。

3 御簾の帽額総角などにあげたる鉤——「帽額」は、御簾や御帳上部を飾るための布。「総角」は御簾を巻き上げたときにとめる飾り紐。「鉤」は御簾を総角でとめたときの金具。

4 筥——木製の入れ物。

問1 傍線部(ア)(ウ)に含まれる「な」(左の二重傍線部)の説明として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つずつ選べ。解答番号はア

ウ 27。

26

(ア) きはやかなる (ウ) おきたるななり

- | | |
|-----------------|----------------|
| ① 伝聞の助動詞「なり」の一部 | ② 完了の助動詞「ぬ」の一部 |
| ③ 断定の助動詞「なり」の一部 | ④ 禁止の終助詞「な」 |
| ⑤ 詠嘆の終助詞「かな」の一部 | ⑥ 禁止の副詞「な」 |
| ⑦ ナリ活用形容動詞の一部 | ⑧ ナ行変格活用「ぬ」の一部 |

問2 傍線部(イ)(エ)(オ)の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。解答番号はイⅡ

オⅡ 30。

(イ) おどろきて

- ① 徹夜していて
- ② うとうとしていて
- ③ 目を覚まして
- ④ 飛び起きて
- ⑤ たた叩き起こされて

(エ) はづかしげなる

- ① 気後れしてしまうほど立派な
- ② 堂々としていてまぶしい
- ③ 心苦しいほど近寄りがたい
- ④ 貴いが親しみ深い
- ⑤ はにかんでしまうほど美しい

(オ) おどろおどろしからねど

- ① 貧相ではないが
- ② こっけいではないが
- ③ 不自然ではないが
- ④ 不気味ではないが
- ⑤ 大袈裟ではないが

問3 傍線部(カ)「さななりと聞えたる」とあるが、筆者が聞いたのは何の音か。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

31。

- ① 周りを起こさないよう、しやなりしやなりと歩く音
- ② 長い髪をさらさらと引きずって渡殿を歩くような音
- ③ 部屋に出入りするときの、衣服が擦れ合うような音
- ④ 酒を飲みながら、深夜の宴を大いに楽しんでいる音
- ⑤ 噂話を披露し合って、女房たちがけけらけらと笑う声

問4 『枕草子』の説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

32。

- ① 『紫式部日記』に書かれた自分の記載に立腹した清少納言が、自らの卓越した美的センスを世に知らしめるために書き記した作品である。
- ② 『源氏物語』の雅な女房の世界に感銘を受けた清少納言が、実際に中宮に仕える女房たちの間で共有されている美意識や価値観をドキュメンタリ―として記録した作品である。
- ③ 『栄花物語』や『大鏡』に記された宮中の華やかな生活を一般庶民向けに書き記して、藤原氏の栄華を後世まで伝えるために書いた作品である。
- ④ 一見、自由な形式で書かれているように見えながら、実は閑白の指示のもと、清少納言が綿密な構成を練りあげて編んだ作品である。
- ⑤ 本文はきわめて自由な形式で書かれており、その内容から日記的、類聚的、随想的な章段の三形態に分類される作品である。

2025(令和7)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
特待奨学生選抜（2024年12月14日実施）
解答例【マーク式】

国語 【国語総合】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	⑤	3
	2	④	3
	3	②	3
	4	①	3
	5	③	3
	6	④	3
	7	⑥	3
	8	⑦	3
	9	①	3
	10	③	3
	11	③	4
	12	④	4
	13	②	2
	14	⑥	2
	15	③	4
	16	①	2
	17	⑤	2
第2問	18	②	4
	19	④	4
	20	③	3
	21	①	3
	22	⑤	4
	23	①	4
	24	③	4
	25	④	4
第3問	26	③	3
	27	⑥	3
	28	⑧	3
	29	①	3
	30	④	3
	31	②	5

計	100
---	-----

国語 【国語総合+古文】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	⑤	3
	2	④	3
	3	②	3
	4	①	3
	5	③	3
	6	④	3
	7	⑥	3
	8	⑦	3
	9	①	3
	10	③	3
	11	③	4
	12	④	4
	13	②	2
	14	⑥	2
	15	③	4
	16	①	2
	17	⑤	2
第2問	18	②	4
	19	④	4
	20	③	3
	21	①	3
	22	⑤	4
	23	①	4
	24	③	4
	25	④	4
第4問	26	⑦	3
	27	③	3
	28	③	2
	29	①	2
	30	⑤	2
	31	③	4
	32	⑤	4

計	100
---	-----